

発行所 〒160-0017
 東京都新宿区左門町11番地6の101
 社団法人 大学女性協会
 電話 03-3358-2882
 F A X 03-3358-2889
 http://www.jauw.org
 E-mail: jauw@jauw.org
 発行人 青木 怜子
 編集責任者 端本 和子

J A U W

おもな記事

- 1面 2010シンポジウム、一般社団法人申請に向けて(2)、UWA 総会案内、岡山支部とIFUW、静岡支部とIFUW
- 2~3面 基調講演、発表報告要旨、懇談 新春のつどい、2010年度国際奨学生、仙台支部だより、国内NGO委員会、理事会から、新入会員

2010年度JAUW主催シンポジウム
**「改めて問う」国際社会と連携する
 NGO活動」とは**
 2010年10月30日(土) 女性と仕事の未来館にて
 主催 社団法人 大学女性協会
 副会長 高田 武子
 企画委員長 高田 武子

JAUWは、従来から、IFUWの加盟団体として、高等教育の推進・女性の地位向上・国際交流と理解をめざし、世界各国の女性協会と協働して、社会的活動を続けて参りました。しかし、来年度に向けて新たな形態での法人化を目指す本協会にとっては、今こそその組織と目的・事業などをより鮮明に浮かび上がらせ、改めて本協会として何をやるべきか、また会員一人一人が、会員である意味を自ら問いたす時期と捉え、今回のシンポジウムのテーマとなりました。

シンポジウム第一部では、3年に一度、開催されるIFUW総会が今夏メキシコで開かれたことを受けて、メキシコ総会の全体の報告を梅田信子会員が行い、続いて総会の基調シンポジウムで発表した岡部佳世・且まゆみ会員、またワークショップで「公正な社会に向けて」「若者の平等意識とデートDV」と題して発表した茨城支部及び、「未来に向けて食の供給と安全性」と題して愛知支部が、その成果を報告。さらに本協会の育成支援を受けて総会に参加した若手研究者と、本年度新規事業で参加した非会員の学生からも参加報告がなされました。それぞれの発表報告から

一般社団法人申請に向けて(2)

準備委員会
 委員長 阿部 幸子

一般社団法人への移行認可の基準は、①定款の内容が新法に合致していること、②公益目的支出計画書が適正であることの2点です。①については「定款の変更の案」がほぼ整い、現在、理事会・準備委員会では②の公益目的支出計画の作成に向けて準備作業を行っている段階です。

一般社団法人への移行時の残余財産(正味財産相当額)は、これまで公益法人としての事業によって蓄積

された資産であり、この財産(公益目的財産)は公益の目的のために消費し、全額を消費するまで計画的に公益事業を行っていくことが必要とされています。そのため「公益目的支出計画」の提出が義務付けられ、この支出計画が確実に実施できるものであることが認可の基準となっています。

当協会は「従来の主務官庁が公益的な活動として認められた従来からの継続事業」「定款の変更の案」の事業1~4を想定)を実施し、事業の赤字累積額が公益目的の財産額に達するまで行う



30回総会を祝うパースデーケーキ

基調講演者の康京和国連人権副高等弁務官

IFUW 30回メキシコ総会風景

長、松浦晃一郎氏を基調講演者に迎え、氏の国際的・文化的に多岐にわたる深い見識による講演をいただきました。その後の懇談の部では、本協会と同じように国際的組織として国内外で多くの活動をされている、日本BFW連合会から平松昌子氏、ユニフェム日本国内委員会の吉川真由美氏、またアフリカ・ウガンダを活動拠点として国際的に活動するワトトジャパンから林桃子氏を迎えて、幅広い討論が展開されました。冒頭、各氏からの密度の濃い発題がされたあと、基調講演者の松浦氏がコメントイターとして問題を提起、更に密度の濃い内容となり、会場からも熱意ある質問を受け活発なシンポジウムを終えることが出来ました。

今回このシンポジウムを通じ、会員各自が改めてそれぞれの胸に「国際社会と連携するNGO活動」とは何かを考え、行動する本部・支部の姿を多少なりとも描くことが出来たとすれば、皆様のご協力により、その機会を得られたことを深く感謝いたします。来年のセミナーは、この成果を活動へと繋がついていくことを願っています。



シンポジウム会場風景

「UWA 総会」のご案内と参加者募集

3年に一度のUWA(アジア大学女性協会)の総会が下記の通り開催されます。

参加者については、JAUWの会員であること以外、特に規制はありません。

多数の会員の参加をお待ちしております。

日時: 2011年11月18日~20日
 会場: タイ バンコック
 テーマ: Roles of Women as Peacemakers
 申込み締切: 2011年8月末日
 (締切日は大分先ですが、是非来年のスケジュールに組み込んで、御計画ください。)
 問い合わせ先: 本部 TEL: 03-3358-2882
 e-mail: jauw@jauw.org

岡山支部とIFUW

岡崎 優子

1995年IFUW横浜総会の時には、総会後のIFUW国内旅行Dコースで京都から岡山を訪れた6カ国32名を会員宅ホームステイで受け入れ、2日目は後楽園の能舞台上で舞踏家の会員による綾子舞の鑑賞に続き、山陽学園大学でお茶会や交流パーティを行い、広島へ移動するIFUW会員を送り出しました。日本の普通の家庭を少しでも見ていただきたいとの思いが有意義な交流に繋がりました。

2004年IFUWパース総会のワークショップでは、本部教育委員会の『日本のICT教育』の中で「ICT男女平等教育と指導者育成の現状」を真邊支部会員が発表しました。同好会ではIFUW報告書も読んでいます。今後、支部としてワークショップ参加を目指したいです。更にIFUW総会前後ツアーを世界各地から参加するIFUW会員との交流の場として活用できればと思います。

静岡支部とIFUW

山下 いづみ

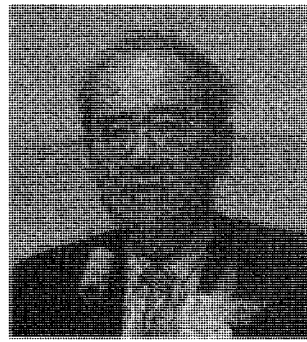
静岡支部では創立から63年、調査・研究、セミナー、研修会、国際交流と多彩な活動をしています。近年では、外国人が多く暮らす県のひとつであることから、外国人が暮らしやすい街をめざして、多文化共生の研究・調査を開始しています。また、県国際交流協会への参加などをして、留学生など外国人の人たちとの交流も深めています。IFUWでは近年、「教育」「環境」「経済」「人権」の4つのエリアに力を入れています。静岡支部の多文化共生の取り組みは、3つのエリア「教育」「経済」「人権」が充実してこなければ達成の出来ないことです。このように静岡支部の取り組みは、IFUWの目的と大きく関わっています。今後、静岡支部活動の成果をIFUWで発表できるよう、支部会員一同協力をしていきたいと思っています。

基調講演要旨

「国際社会と連携する NGO 活動とは」

前ユネスコ事務局長

松浦晃一郎氏



基調講演 松浦晃一郎氏

ユネスコはユネスコ憲章の基に設立された国連の専門機関で、第二次大戦後の1946年11月に発足した。ユネスコ憲章の前文に「戦争は人の心の中に生まれるもので、まず人の心の

中に平和のとりでを築く必要がある。」とある。国連は軍事、政治を直接あずかることによつて、戦争を防止するのに対して、教育、文化、科学、コミュニケーションの分野で交流を進めることにより相互理解を深め、それを通じて戦争を未然に防ぐというのがユネスコの精神である。国連の専門機関で、政府間の組織で

はあが、当初からユネスコの担当する分野の推進には政府間の協力だけでは不十分で、市民社会(Civil Society)の協力が必要であると認識されていた。ユネスコの担当する一連の分野はまさに平和運動に直結しており、それにいち早く注目したのは日本の市民社会で、ユネスコクラブ、ユネスコ協会というNGOの形で結実し、その世界第1号が1951年に仙台に誕生した。現在世界全体で約4,000あるユネスコクラブ、ユネスコ協会の1割が日本にあり、活発に活動している。

文化の分野は条約が整っており、そのひとつの世界遺産条約は1972年に採択されている。日本は、20年後の1992年に批准し、その後は大変活発に世界遺産体制に貢献している。この世界遺産の認定に当たって、文化遺産はICOMOS、自然遺産はIUCNというように国際的なNGOが技術的な評価をしている。

この他の自然科学・社会科学とともに力をいれているのが、コミュニケーション分野であり、報道の自由や記者の安全保障を求め、世界的なNGOとも取り組んでいるところがある。

このようにユネスコの諸活動において、NGO・市民社会の力は非常に大きい。しかしながら世界的に見ると、その中核は欧米である。ユネスコが対象としているのは世界的なネットワークでもって活動しているNGOであり、協力関係を結んでいる335のNGOのうち約8割は欧米に本拠地を置いている。

日本について言えば、NGOはこの30年間非常に育ってきているもの、もっと海外に出て行ってもらいたい、同時に、もっと民間からの支援を望みたい。積極的に参加し、資金的に援助するという欧米で培われた伝統が日本にも根付いて欲しいと思うところである。(広報)

IFUWメキシコ総会報告要旨

全体報告
「25通りのIFUW総会」
穂田信子

現在、IFUWの加盟協会は67、会員数は約2万5千人。3年に一度の総会は、本年8月の「教育、エンパワメント、開発」をテーマとするメキシコシティ総会で30回を数えました。2010年はメキシコ独立200周年、社会革命百周年にあたるのです。

総会では、新会長マリアン・ハッセルグレイヴ(英)以下、メキシコ、仏、豪、蘭から副会長4名、財務理事は南アから選出されました。決議は13本が採択され、

当組織の活動と規律を定めました。詳細はJAUWのサイトでご確認下さい。また、総会は日頃ボランティアに取り組みむ女性たちが、経験を共有し、思いを新たにする場です。今回は日本からの発表も複数あり、JAUWのワーク・ライフ・バランスをテーマにしたシンポジウムと国際委員会のアンケートにも関心が寄せられていました。

国際委員会が、総会に向けて一年以上にわたって文書の翻訳や旅行の手配等で会

このパネルは「生涯を通して学習することで女性の社会進出を進める」というテーマを掲げたセッションのオープニングで行われました。パネルのテーマは「生涯を通して学習によって、リーダーシップ発揮のため、女性性を後押しする」というもので、コーディネーターはニュージーランドのドロシー・マイヤーさん。パネリストはメキシコ、ウガンダ、ナイジェリア、ニュージーランドと日本からの6名でした。パネル終了後4つの部会でセミナーが開かれ、午後には4つのワークショップが開催されました。

私達は「日本における女性の社会的地位向上」とい

「公正な社会に向けて」「若者の平等意識とデートDV」
JAUW茨城支部 副支部長 牧島 悠美子

茨城支部はWS4「公正な社会に向けて」の部門で「若者の平等意識の改善に向けて」平等意識とDating abuse 虐待の関連で参加した。「デートDV」という語句は日本語のため、国際会議でも使用されている「Dating Abuse」の言葉を使用することにした。

茨城支部では1999年、2000年、2008年の若者の意識調査の結果、男子の保守化とデートDVの関連性に着目。女性の被害が圧倒的で、最初の被害時期でも女性は中学時代が半数を占め、19歳までに9割以上が被害を受けている。

「デートDV」の予防と啓発のため、チェックリスト付きの、中・高校生用パンフレットや教師・保護者用冊子も作成した。

WS参加者に、配布した

「公正な社会に向けて」
JAUW茨城支部 副支部長 牧島 悠美子

茨城支部はWS4「公正な社会に向けて」の部門で「若者の平等意識の改善に向けて」平等意識とDating abuse 虐待の関連で参加した。「デートDV」という語句は日本語のため、国際会議でも使用されている「Dating Abuse」の言葉を使用することにした。

茨城支部では1999年、2000年、2008年の若者の意識調査の結果、男子の保守化とデートDVの関連性に着目。女性の被害が圧倒的で、最初の被害時期でも女性は中学時代が半数を占め、19歳までに9割以上が被害を受けている。

「デートDV」の予防と啓発のため、チェックリスト付きの、中・高校生用パンフレットや教師・保護者用冊子も作成した。

WS参加者に、配布した

「IFUW総会に参加して」
根岸 えま

私が今回の滞在において最も印象に残った会議はBuilding Multicultural Leadershipのワークショップでした。このワークショップでは主に「IFUWおよび各国支部に若年層会員がほとんどいない」という議題で各テーブル約10人でディスカッションを行いました。この問題の原因として

消費者として、どのように食料問題を考えるべきかを日本を例に、話題を提示し、検討した。

現在、日本の食料自給率はカロリーベースで40%であり、多くを輸入に頼っている。そのため、輸入に伴う環境負荷、フードマイレージは世界最大である。日本は太平洋戦争後60年に亘り、経済復興を工業により支え、狭い農地はさらに放棄されている。近年、特に放棄地の目立つ里山で、自然農法を行い、新鮮で安全な農産物を消費者に直接届ける農家の在り方が注目されている。

一方、人々の食生活は、欧米化が進み、自給率100%を得られるコメの消費量は1960年代の半分に減少した。さらに全供給エネルギーの1/3を廃棄するに至っている。

どうすれば良いか。我々の得た結論は極めて、当たり前のことであった。食物に対してもっといいという気持ちを持つこと。人々に農業の本質、自然を大切にするこの意味を伝えることなどである。

これに対して、参加者からは、IFUWとして、なにができるかを考えたい。また、農業保護の実態(スイス)、食料廃棄、廃棄食料のリサイクル(アメリカ)、学童の朝食抜きに対応する小学校の朝食クラブ(イギリス)など、貴重な意見が出された。

若手研究者
「IFUW総会に参加して」
平間 充子

若手研究奨励金での参加であり、会員の皆様には大変貴重な機会を頂き心より御礼を申し上げます。ほぼ全ての種類のセッションとトレーニングプログラムに出席したが、中でも印象に残ったのは「高学歴女性のためのメンタリング」というトレーニングプログラムの一つである。メンタリングとは「経験豊富な人物(メンター)と経験の少ない人物(メンティー)との間に結ばれた構造的で、援助的な関係」であり、メンターはメンティーに助言をする立場にある、と言えるだろう。その目的は「メンティーが職業・生活面でステップアップできるようにすること」にある。本質として①二人は平等で②メンターからの働きかけは指導と支援の両輪ではないだろうか。

世界への人口増加、自然環境の悪化の中で、我々は

未来に向けて食の供給と安全性
消費者として我々は何ができるか
愛知支部 寺田 純子



挨拶をする青木会長

挨拶をする青木会長

開催される総会への参加に、はとでも多くのコストがかかるので、それが大きな壁になっていくようでした。また、英語が母語でない人々にとって英語中心の会議への出席は少し抵抗があるようでした。

私自身このような国際会議に出席するのは初めてでしたが今後の自身の研究につなげるようなことがたくさんあり実りのある滞在でした。しかし奨学金がなかったら決していくことができませんでした。今回このような機会をつくっていただいた青木会長をはじめとする協会の方々に深くお礼申し上げます。ありがとうございました。

大学女性協会委員会報告

「国内NGO委員会のこれから」

国内NGO委員会 五十嵐 康子

〔国内NGO委員会担当の国際社会と連携する活動〕
◆国連NGO国内婦人委員会は、日本が国連に加盟した翌年、1957年、国際組織で国連経済社会理事会の諮問的資格を有する10団体で組織された。

*活動1、国連総会日本政府代表団に民間の女性を必ず加えることを外務省に要望、以来毎年国連総会第3委員会に出席。

役割 ①日本政府のステータメントを述べ他の加盟国の主張を把握し決議の作成につなげる。②帰国後報告会を行い世界の現状や問題点を多くの人々に伝える。③NGOとしての経験を活かし政府に働きかける。

*活動2、日本・アラブ女性交流(外務省委託事業) JAUW担当16・17回テーマ「女性のエンパワーメントに向けて」技術職業教育「東京・岡山(公開)シンポジウム開催」

成果 ①NGOと政府の新たな協力関係を作る。②日本において中東の女性への理解が深まる。③相手国NGOと相手国政府の関係をよりよいものに

女性大会開催、国際婦人年な会員を推薦する
2、政策方針決定過程へ女性の参画推進のためクォータ制の導入を各政党に申し入れる。
3、国際関係の報道やNGO間の連携活動に関する紹介等メディアの協力を働きかける。

◆提言1、国連総会日本政府代表団にJAUWの有能

「教育委員会の活動と国際社会とのつながり」

教育委員会 長 田 満江

1. 教育委員会の活動
委員会の調査・研究活動を1980年代、90年代、2000年代に分けて分析し、各テーマがそれぞれの時代の教育問題から選択されていることを確認。

◆国際婦人年連絡会
*活動1、世界会議に呼応して5年ごとにNGO日本

女性の地位委員会は、「国際社会と連携するNGO活動」として、3つのNGOにわたっており、それらは、
1. 国際婦人年連絡会、2. 日本女性監視機構、3. 国際人権規約完全実施促進連絡会議です。

一つ目は、国内NGO委員会が主に関わっているもので、二つ目は、中村道子元JAUW会長が作られた「日本NGOレポート」を作ったもので、2001年に設立。その目的は、1. NGO代表者に若い女性を国連の婦人地位委員会などに送ること、2. 国連の婦人地位委員会の優先

「国際社会との連携による『平和・人権』の実現に向けて」

女性の地位委員会 平井和子

介入批判など、国内の教育問題が中心で、国際社会との連携という視点からのものは見られなかった。

4. 提言
今後の教育委員会調査・研究課題に国際社会との連携の視点を入れ、教育分野の国際協力や、途上国の教育支援を考える。
・教育・マスメディア委員会の活動に、国際的視点を含める。
・JAUWの各委員会と支那委員会間の共同研究を企画する。



熱心に聴き入る参加者



多数の学生参加者



会場で質問をする会員

シンポジウム会場風景

行政の役割の違い、寄付文化・税制の違い、NGO活動についての社会認識や法的対処の違い、市民自身の責任感の違いを実感する。そして、情報は交換が目的ではなく行動の起点であり、支援は与えることではなく「持ちつ持たれつ」の関係であるべきで、NGOは社会貢献を実現する企業であるとの意識が必要と強調された。

吉川氏は、ユニフェム(国連女性開発基金)が、国連ミレニアム開発目標実現のために、特に暴力撤廃やHIV・エイズ撲滅など女性のためのプログラムや戦略に資金や技術援助を行っていること、その基金を支えるのが各国政府、世界に18ある国内委員会、NGO・個人・企業からの拠出金であることを説明。日本国内委員会は、アジアを中心に、アフガニスタンやバングラデシュでの識字教育への尽力に見られるような女性の地位向上や起業家支援、カンボジアでのHIV・エイズ感染者の自立支援など、その国の実情や資金提供の効果を見極めながら活動しているとした。

松浦氏は、日本のNGO活動に期待しつつ①日本の団体・企業・個人の資金的支援の増加と税金面での優遇の必要性②サハラ以南のアフリカの貧困問題への関心喚起③NGO活動と宗教との関係による功罪④日本のODA予算急減について問題提起。

続いて会場からの質問に対し、松浦氏は、ODA資金の有効活用のためには政府対政府一本ではなく、NGOやマルチ(国際機関)を活用すべきと指摘。吉川氏は、NPOという社会的地位を持ち資金調達するには、その団体の組織・活動・効果についての説明責任があることを指摘。平松氏も、ODAについては政府が最も説明責任を果たすべきこと、NGOもお金の流れや経緯・効果をきちんと説明し、何が求められているかを調査することが必要で、それができてこそ国際的な関係の中での役割が果たせると指摘された。(東京支部 藤田典子)

●懇談
「国際的なNGO活動とは」

【コメンテーター】
松浦 晃一郎 前JICA事務局長
【発言者】
平松 昌子 日本NGO連合会 国際委員長
吉川 真由美 ユニフェム日本国内委員会常任理事
林 楓子 WFP/OTDジャパン事務局長
【司会】
荒見 八重子 大学女性協会理事



懇談の発言者の方々

平松氏は、日本BPPWが、仕事をする女性たちの環境整備と地位の向上や女性リーダーの育成を目的に、技術の提供や情報の交換、課題解決に取り組んでいて、UNCSWへの女子学生派遣・スピーチコンテストや女性事業者育成のためのポスト研修を実施しているとした。特にポスト研修では、DV被害女性や貧民の救済活動などを行うNGOでの体験、シモンズ女子大での女性リーダー研修の受講を通じ、派遣者たちが、日本と比べ市民社会のリーダーや

を持って国の再建に繋がるリーダーに育っていくこと、お母さん自身も内戦やエイズで傷を負った女性たちで、訓練を受けて母となり収入を得て自立支援がされていること、内戦で殺人兵器にさせられた元少年少女兵士たちの精神的・身体的ケアと教育・職業訓練などが行われていると説明。ワトトジャパンは、子供たちによる歌と踊りのチームのコンサートの開催を支援、各地域での交流を通じアフリカ問題・エイズ問題・生き方の問題を考える機会を作り、寄付金や子育てスポ



JAUW 新春のつどい

今年度も、恒例の「JAUW 新春のつどい」を以下のように開催いたします。国内奨学金贈呈式は、大学女性協会の大切な公益事業の一つです。未来への希望と意欲にあふれる奨学生のスピーチは、毎年私たちに大きな感動を与えてくれています。懇親会では今年は女流真打の講演をお楽しみいただきます。

会員の皆様、また会員外の方々もどうぞお問い合わせ、多数ご参加くださいませ。

日時 2011年1月8日(土) 11:00~14:00
 場所 新宿 京王プラザホテル本館4F 「花」

プログラム 1部 2010年度 国内奨学金贈呈式
 2部 懇親会 講演 神田 阿久鯉(あぐり)さん

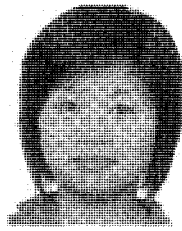
会食・懇談

会費 10,000円
 申込先 (社) 大学女性協会本部事務所
 Tel: 03-3358-2882 Fax: 03-3358-2889
 E-mail: jauw@jauw.org

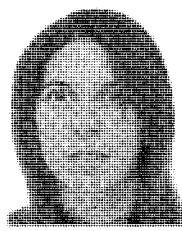
申込締切日 2010年12月20日 (12月28日までに振込みください)
 振込先 三菱東京UFJ銀行四谷支店
 普通預金・口座番号1077777
 別口(社) 大学女性協会 理事 青木 怜子
 なおキャンセルは3日前までとさせていただきます。

今回も、財務委員会・東京支部のバザーを行います。どうぞお楽しみに。皆様からの寄贈品を事務所に随時受け付けております。

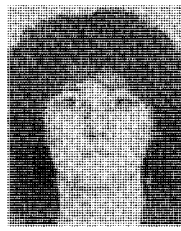
(社) 大学女性協会



方旭さん



エシッドさん



ダスカロヴァさん

応募範囲を一般に開放して2年目の2010年度国際奨学生応募者は、IFUW会員(独立会員を含む)6名、非会員13名計19名(内3名失格)でした。5月30日国際奨学委員会選考会を開催し、厳正な審査をした結果、ブルガリアの大学女性協会会長クラツシミラ・ダスカロヴァさん、IFUW独立会員でチェコのヴラジミラ・ヴァニコヴァさん、非会員でチェコのアネリン・エシッドさんの3名を選出し、6月6日の理事会で承認されました。その後ヴァニコヴァさんと連絡がとれず、補欠でドイツ在住中国人の方旭(ファン・シユウ)さんを選びました。

ダスカロヴァさんはすでに幅広い研究成果をあげている方、一橋大学で2010年12月20日から3ヶ月の予定で「沈黙を読む——ヨーロッパ内外諸国の現代歴史教科書に見る女性像とジェンダー関係」と題するテーマで行う研究は、ジェンダー問題に関する深いJAUWにとつても、示唆に富む成果をあげてくれると期待しています。

エシッドさんは「がん幹細胞の研究」を筑波大学で2010年9月15日から6ヶ月間行う予定。彼女に

《2010年度国際奨学生》
 クラツシミラ・ダスカロヴァさん (ブルガリア)
 ネスリン・エシッドさん (チュニジア)
 方旭(ファン・シユウ)さん (中国)

国際奨学委員長 平野和子

奨学金を手渡しに赴いてくださった城倉純子茨城支部長の話によると、明るく聡明な印象を与える女性で12月に出産予定だそうです。が、指導教官の大根田教授の暖かい励ましとご夫君の協力を得ながら、こちらの気遣いにも「ノープロブレム」と、元気に研究を続けられる意欲を示したとのことでした。

3人目のファン・シユウさんが2010年9月15日から3ヶ月間行う研究テーマは「測地学へのGPSの応用と地震予知のためのプレート移動の監視」です。GPS(全地球測位システム)は、衛星からの信号をキャッチして地球上の位置の情報を得ることを目的としたシステムです。彼女の許に奨学金を手渡しに行ってきた方旭(ファン・シユウ)さんが昨年他界された。現在、現地の支部長が、指導教授と話を進め、教授はかつて伊能忠敬が自分で歩いてきたことを衛星を使って測量するようなことだとおつ



庄内ひな街道を訪ねて

「ワーク」講演

新しい革袋を求めて
 仙台支部長 谷地森 涼子

仙台支部は設立63周年。一時停滞気味であった会を活性化し、第46回通常総会の仙台開催に尽力された藤崎千代子さんが昨年他界された。現在、現地の支部長が、指導教授と話を進め、教授はかつて伊能忠敬が自分で歩いてきたことを衛星を使って測量するようなことだとおつ

今年、二つの新しい試みに取り組んでいます。
 ☆支部便り「やき発行」
 ☆第53回通常総会に出席し、静岡支部の熱気に大いに刺激を受けました。会員

12年前、国内NGO委員会の前身、国際第2委員会の委員長をお引き受けした時、JAUWの会報に「国際第2委員会から世界が見える」というタイトルで委員会の紹介をさせていただきました。今回は、国内NGO委員会を毎月1回定例委員会を開き、分野別委員会等に参加している担当者からの報告を受け、討議をした上、重要事項は、理事会および各支部に伝えていきます。

また、セミナーやシンポジウムへの参加のための研究調査活動もしています。本年は支部の皆様からのご意見を、各分野別委員会に提案し、要望書などに反映できればと考えています。女性の問題は女性だけに限られるのではなく社会の問題であることを認識して、国内NGO委員会は地道に活動を続けていきたいと願っています。



「ジェンダー平等社会 実現にまっしぐら」
 国内NGO委員長 五十嵐 康子

ライフ・バランスと生活教育の役割」
 講師 中屋紀子氏(宮城教育大学名誉教授)。
 11月17日、サロンのような雰囲気づくりで、多くの市民の参加を呼びかけます。

す。JAUWの活動のPRと会員増の一石二鳥を期待しています。

今後、新年会、交流会を予定し、フィリピン女子大生支援も継続します。

《理事会から》

- 10月30日(土)に開催されたシンポジウムの報告書は来春刊行予定です。
- 臨時評議会を1月8日(土)14:30から開催致します。
- 丸大ハムのカタログを同封いたします。ご協力をお願いします。
- シンポジウムのビデオができました。貸し出し希望の方は事務所までご連絡下さい。
- 鉛筆キャンペーン「届けよう、パキスタンの子どもたちに!」6ヶ月継続します。

《第238号の訂正とお詫び》

支部長名簿
 札幌支部 村上和美様 → 出口好子様
 愛知支部 寺田純子様 → 松崎園子様
 お詫びして訂正いたします。

新入会員 (13名)

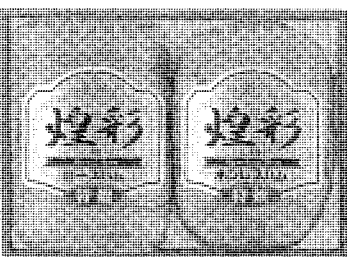
2010年7月~10月 (理事会承認)

札幌支部	増田 順子	大阪支部	齊藤 安貴子
東京支部	小坂 順子	岡山支部	宍戸 智恵子
	小根山 千歳	大分支部	中塚 久美子
	平松 園枝	静岡支部	佐登 光
	佐塚 純子	福岡支部	
福井支部	巳寅 令子	山北	あけみ
		守山	恵子
京都支部	稲葉 カヨ		

おいしさ新鮮



心を込めて、おいしい贈り物



ご家族みんなが元気になる丸大のギフト
 お歳暮・お中元はもちろん快気祝・記念品
 御礼等お気軽に御用命下さい

特別価格にてご奉仕いたします

丸大食品株式会社

首都圏特販営業課 担当 奥(功)

〒135-0051 東京都江東区枝川2-23-2

TEL 03(3647)3270 FAX 03(3647)3274